

1. 理念・目的・教育目標の達成状況

本学は、学是「仁」（人在りて我在り、他を思いやり、慈しむ心、これ即ち「仁」）と理念「不断前進」（現状に満足せず、常に高い目標を目指して努力し続ける姿勢）に則り、「三無主義」（出身校、国籍、性による差別無く優秀な人材を求め、活躍の機会を与える）の学風を掲げ、8 学部 4 大学院研究科 6 附属病院からなる「健康総合大学・大学院大学」として、「教育」「研究」「診療・実践」を柱に、グローバル社会における医療やスポーツ、人々の健康を支える人材の育成・輩出と国際レベルでの社会貢献に取り組んでいる。

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則した教育を展開し、学生の個々人の事情を踏まえたきめ細かな支援・指導を実践している。この結果、学部における学修成果の指標として重視している各種国家試験合格率、企業就職率、教員採用試験合格者数に関しては、いずれも毎年、良好な実績を上げている。卒業時に国家試験受験資格を与える学部（医学部、医療看護学部、保健看護学部、保健医療学部）では、各国家試験において、全国平均を大幅に上回る合格率を維持している。企業、官庁等の就職が主となる学部（スポーツ健康科学部、国際教養学部）の企業就職内定率も全国平均を大きく上回る。教員採用試験合格者数については、スポーツ健康科学部では、現役 47 名、既卒 76 名、合計 123 名となっている（2023(令和 5)年度実績）。

大学院における学修成果の指標としては、学位論文の質を重視している。インパクト・ファクター（IF）の高い学術雑誌に数多くの論文が発表されていることは、当大学院に、質の高い大学院教育とともに優れた研究成果を生み出せる確かな指導力があることを証明している。

今回の自己点検・評価の結果から、大学全体としては、10 の大学基準をそれぞれ満たしていると考え、継続的に様々なレベルで PDCA サイクルを回し、大学改革を進め、更なる高みを目指していきたい。

2. 優先的に取り組むべき課題

1) 学修成果の可視化

学生が、「何を学び、身に付けることができたか」を学生・教員が共有し、教育の質向上を図るため、ディプロマ・ポリシーに示した学修成果を可視化する取り組みを加速する。具体的には、授業科目ごとの厳格な成績評価に加えて、コンピテンシーの達成度評価、CBT(Computer Based Testing)、OSCE(Objective Structured Clinical Examination)、実習・演習時のルーブリックを用いたアセスメント、TOEFL スコアの上昇度等の指標を組み合わせ、学習ポートフォリオも活用して、学生の学修成果を多角的に評価・把握し、それらを可視化する。

2) 学生の受け入れの公正確保

学生の受け入れの公正性・適切性の確保については、2020(令和 2)年度に、全学部・研究科で「入試検証委員会」を設置し、関連する規約を整備した。同委員会では、検証チェックリストをもとに選抜方法・選考プロセスを含む学生の受け入れ全体の公正性・適切性を検証している。この検証は毎年度、実施したい。今後も公正かつ適切な選考を行い、アドミッション・ポリシーで求める資質、意欲を有する学生の受け入れを進めていく。

終章

3) 国際化の推進

2020(令和2)年度からは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で海外渡航が制限されたことで、留学生の派遣数・受け入れ数ともに大幅減となったが、現在は回復傾向にある。引き続き留学協定校の増加、双方向交流の加速、教員の交流・共同研究の促進を図っていきたい。

教育の国際的通用性に注目が集まる中、本学では、「TOEFL」、「IELTS」を中心とした英語教育を全学で推進しており、入学試験においても、国際化に対応できる素養を持った学生を求め、両試験に代表される外部評価機関の得点を出願条件に加える等の改革を継続したい。

4) 研究の推進

研究面では、基礎医学と臨床医学が有機的に連携する優れた研究体制を築いてきたことが、多数の国際レベルでの論文発表に繋がっている。引き続き、国際共同研究を推進し、質の高い論文数の増加に注力していきたい。

2019(令和元)年には、学内外の研究開発シーズの社会実装を図るため、外部エキスパートとも連携し、ワンストップのインキュベーションサービスを提供する取り組みとして、オープンイノベーションプログラム「GAUDI (Global Alliance Under the Dynamic Innovation)」をスタートさせており、特定臨床研究又は治験、共同研究講座設置、企業導出等、各種の取り組みの成果が上がってきている。2020(令和2)年3月には、順天堂医院が医療法に基づく臨床研究中核病院として承認されており、国内外における更なる臨床研究の発展が期待できる。

また、近年は、積極的な産学官連携活動により、共同研究講座・寄付講座・産学協同研究講座の設置数を急速に増やしており、その数は60講座を超え、国内有数となっている。今後も、この流れを継続し、最先端の研究成果を社会に還元していきたい。

3. 今後の展望

1) 教育・研究組織の規模拡大

本学は、これまで8学部4大学院研究科6附属病院を運営するまでに発展してきたが、学部・大学院ともに更なる規模の拡充を図る計画を進めている。

2022(令和4)年度、5つ目のキャンパスとして、千葉県浦安市に「浦安・日の出キャンパス」(約40,000㎡)を開校した。Ⅲ期に分けて、施設・設備の整備を進めながら、3つの新学部を開設し、質の高い医療が求められる中で必要となる医療人材(臨床検査技師、臨床工学士、薬剤師)や現代社会で不足しているデータサイエンスに係る専門人材を養成していく計画である。第Ⅰ期(2022(令和4)年度)には、第7番目の学部として、医療科学部(臨床検査学科・臨床工学科)、第Ⅱ期(2023(令和5)年度)には、第8番目の学部として、健康データサイエンス学部を開設した。第Ⅲ期(2024(令和6)年度)には、第9番目の学部として、薬学部(仮称)の開設を計画している。

大学院においては、本郷・お茶の水キャンパスに、2023(令和5)年度、保健医療学部を基礎とする大学院保健医療学研究科(修士課程)を開設した。2024(令和6)年度、国際教養学部を基礎とする大学院国際教養学研究科(修士課程)(仮称)の開設を計画している。

今後も、学問の動向、社会的要請、大学を取巻く国際的環境等へ配慮しながら、新たな学部・

研究科設置や入学定員増の検討を進めたい。1万人規模の「健康総合大学・大学院大学」に発展させることを目標としており、更なる充実を図っていききたい。並行して、本学の理念・目的を踏まえ、第10番目となる学部の開設についても検討を進めている。

2) 施設の整備・拡充

大学キャンパス・ホスピタル再編事業は、2022(令和4)年度で15年を経過したが、当初方針の通り原資を手元資金で賄い、財務状況に影響を与えることなく各キャンパス・附属病院における施設の拡充計画が順調に推移している。

特に、本郷・お茶の水キャンパスでは、順天堂医院の建替えが完了し、センチュリータワーを中心とした教育研究環境も飛躍的に改善している。2020(令和2)年9月には、新研究棟であるA棟(Ⅱ期)が竣工し、2018(平成30)年12月に竣工した高層棟A棟(Ⅰ期)とともに先進的研究の国際的な交流推進拠点となった(現7号館)。また、本学は、文京区が推し進める旧元町小学校の再編事業の事業者に選定されている。本プロジェクトの基本構想は、『100年後につながる地域の健康拠点「元町ウェルネスパーク」を創る～持続可能な未来健康都市「文の京」の実現～』であり、GAUDI、AIインキュベーションファーム、スポーツロジセンター、保育等に関する事業が計画されている。同パークは、2025(令和7)年4月末に竣工予定である。

更に、埼玉・浦和美園プロジェクトとして新たな附属病院整備計画も予定されており、計画に沿って各種事業を着実に進め、施設の整備・拡充を図っていききたい。

4. おわりに

大学を取り巻く環境や大学に求められることが変わろうとも、学是「仁」、理念「不断前進」、そして学風「三無主義」からなる順天堂人としての文化、風土はぶれることはない。今後も順天堂は、永き良き伝統を継承し、自ら改革することを怠らず、教育、研究、診療・実践の質を高め、国際的にも評価され続ける「健康総合大学・大学院大学」として、人材育成と社会貢献を進めていきたい。

2023(令和5)年9月

順天堂大学学長 新井 一